

ロシア 東欧 経済速報

(社) ロシア東欧貿易会

2006年（平成18年）2月25日号 No. 1355

目次

● オイルマネーがロシア経済に及ぼす功罪	坂口 泉 1
● エトセトラ	11
『調査月報』2006年3月号のご案内／11	
● ロシア東欧貿易会関連の行事予定	12
● CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	12

オイルマネーがロシア経済に及ぼす功罪

はじめに

ロシア経済が現在、非常に好調であるという点に関しては議論の余地がない。また、その好調さを支えている主因が高い油価水準だという点についても、専門家の意見はほぼ一致している。だが、好事魔多しで、2005年に入り続いている想定外ともいえる油価の高騰を契機とするような形で、様々な歪や不安材料が散見されるようになっている。本稿では、2005年の経済実績をはじめ、ロシア経済の好調さを示す数字を紹介すると同時に、石油の国際価格に大きく依存した経済が内包する諸問題についての考察を試みる。

1. 石油価格の高騰傾向とGDP

ロシア経済好調の最大の要因は、1999年後半から石油価格の高騰傾向が顕著になったことに加え（第1図）、2000年から石油の生産量、輸出量ともに急増したことにありと思われる。たとえば、2000年に約3億2,322万tであった石油の生産量は、2004年には約4億5,881万tに達した。石油の輸出量のほうも、2000年には約1億6,000万tだったものが2004年には2億6,000万t近くに達した（いずれもロシア連邦統計局の数字）。これらの数字のうち特に石油価格とGDPの間には密接な相関関係が存在し、前年と比較して石油の国際価格の高騰傾向が顕著であった、2000年、2003年、2004年のGDPの伸びが特に顕著となっている（第1表）。逆に